

問

県畜産研究所跡地の市への返還に関する現状について

- ①いつ、美濃加茂市へ返還するのか。
- ②施設撤去や土壌汚染調査の方法はどうするのか。



答

農政部長

- ①この施設は、関市への移転が完了する今年3月末をもって廃止する。
- ②美濃加茂市と協議の上、令和9年度中に返還の見込みである。
- ③併せて、施設撤去や土壌汚染調査の方法についても、市と協議中である。

マッキーから一言

この跡地は、昭和37年に美濃加茂市と岐阜県との間で、実測面積で約5万㎡余りの土地の使用貸借契約が締結されて以降、岐阜県畜産試験場敷地としての用に供されてきたものです。地元からも、この跡地の返還時期や返還方法を巡るお尋ねの声が上がっていましたので、今回の一般質問でその返還等に係る方向性についてお尋ねしたものです。

美濃加茂市も、新庁舎移転に伴う、本件土地の返還後の有効利用について検討していますので、その返還が速やかに、かつ、円滑に行われることと強く望むことを訴えたものです。

中部国際医療センターを3次救急医療機関へ県指定！



今年4月1日付けで、中部国際医療センターが、岐阜県から高度な救命救急医療を提供する救命救急センター（3次救急医療機関）の指定を受けました。中濃地域では、救命救急センターは中濃厚生病院（関市）しかなく、重症・重篤な救急患者の受け入れ先が見つからず、搬送困難事例が増加していました。

こうした状況と関係当局の強い要請を重く受け止めて、私もこれまでの一般質問でも取り上げ、かつ、関係機関へ指定に向けて、鋭意働きかけてまいりました。これまでも、当病院は、救急医療センターと同等の役割を事実上担ってきましたが、このたびの指定による種々の環境整備により、より迅速で適切な救急対応が可能となります。この中濃地域のみならず、飛騨南部や東濃地域の救急移送も受け入れ、地域全体の救急医療体制の充実に寄与することとなります。

過日、地元県議としての私の立ち合いのもとで、藤井美濃加茂市長から江崎知事に「旧畜産試験場跡地の返還について」と「木曽川中流域の活性化に係る支援の継続について」の要望がありました。こうした県政と地元市政との連携を深めながら、さまざまな地域課題に向き合っていくための橋渡し役としての私の任務も不可欠なものと受け止めております。



三拍子揃った 美・濃・加・茂

故事成語に「天の時、地の利、人の和」というのがあります。意味は「天（天候）による好機も土地の有利な条件には及ばない。また、土地の有利な条件も人々の強いつながりには及ばない」という意味のようです。

しかし、私も現職の立場上、県内各地域を見渡しても、そして、ことのほか強い愛郷心を差し引いても、私たちの住む美濃加茂は、天の時、地の利、そして人の和の三拍子が揃った素晴らしいまちだと思います。

そうは申し上げても、この恵まれ過ぎた環境に甘んじることなく、さらなるこのまちの発展のため、今後とも、地元美濃加茂と岐阜県政をつなぐパイプ役として、いっそう精進してまいります！

まちが美^{かな}し哉…
人情が濃^のい哉…
人が加^かわる哉…
緑が茂^もる哉…
美・濃・加・茂
ほんに よいまち
すきな まち

